

北アルプス森林林業基本計画 松川村 実務・手引編

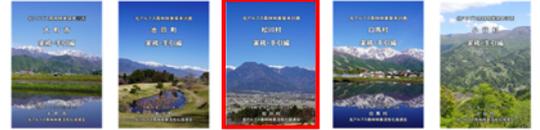
北アルプス圏域5市町村では、森林の経営管理や活用を通じて、地域の豊かな暮らしに寄与するために「北アルプス森林林業基本計画（以下「基本計画」という。）」を策定しました。この計画は、森林が地域の財産であることを認識し、中長期的な視点で森林の役割を活かしていくことを目指しています。

この基本計画のうち「松川村 実務・手引編」は、村の特徴、独自性、自立性を考慮した担当者のマニュアル（教本）を主目的に作成しました。



5市町村 実務・手引編

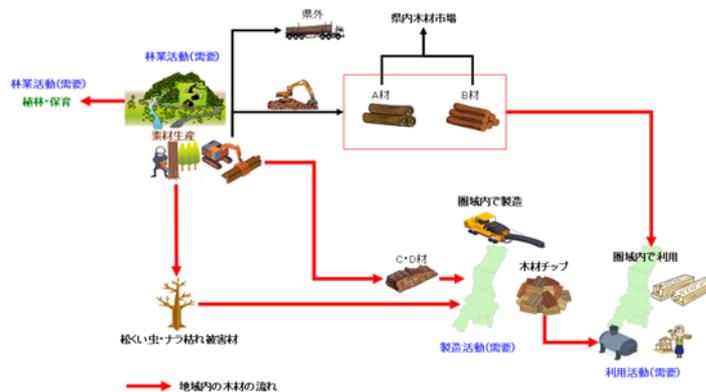
市町村個別の課題・対策の内容、森林・林業の管理の基本事項



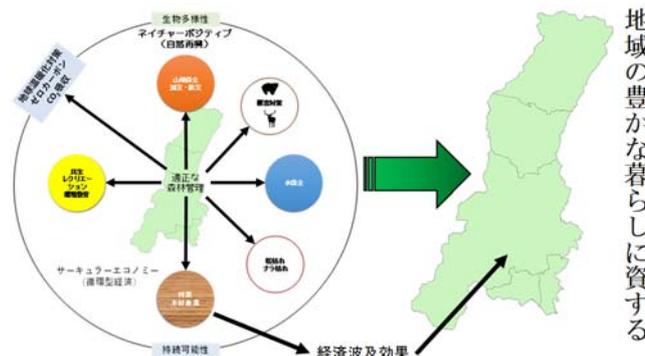
◆基本計画の目指す姿（目標）-1 森林の多面的機能の高度発揮



◆基本計画の目指す姿（目標）-2 森林・林業・木材産業の発展



◆基本計画の目指す姿（目標）-3 地域の豊かな暮らしを目指して



◆計画期間

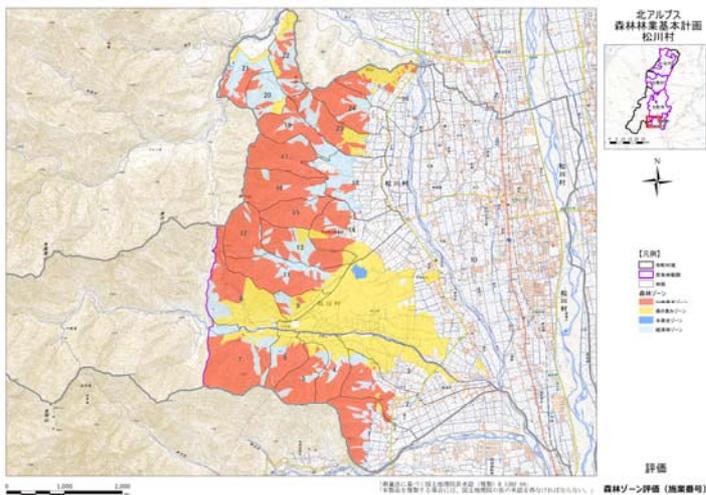
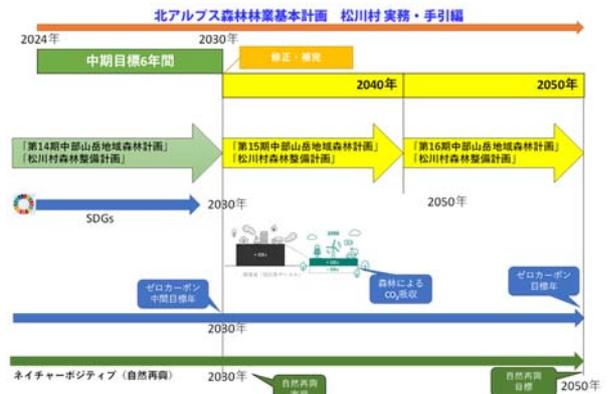
「基本計画」の計画期間は次の事項を考慮して、2024年～2050年としました。中期目標は2030年としました。

◆基本方針と実施方針

ゾーニング図を作成して、4つの基本方針を定め、取り組むべき項目として中期目標である2030年までの実施方針を示しました。

- ◆ 基本方針-1「松くい虫対策の強化」、「野生獣害対策の推進」
- ◆ 基本方針-3「森林CO₂吸収の強化の推進」、「修景整備」

を中期重点対策としました。



ゾーニング図

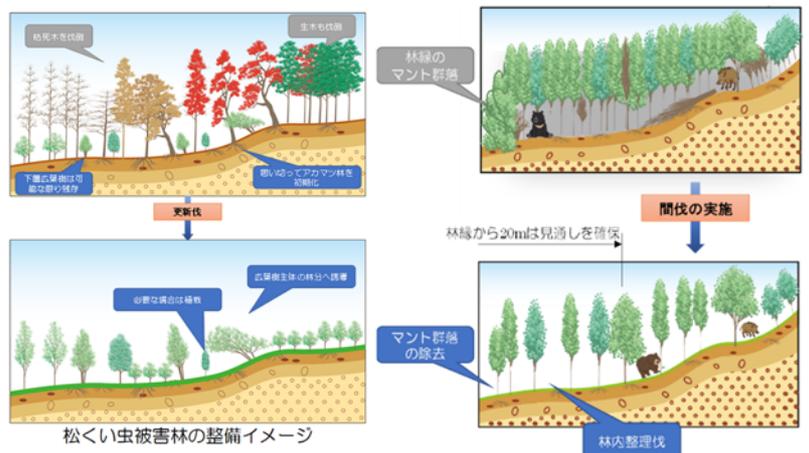


★ 実施方針-1

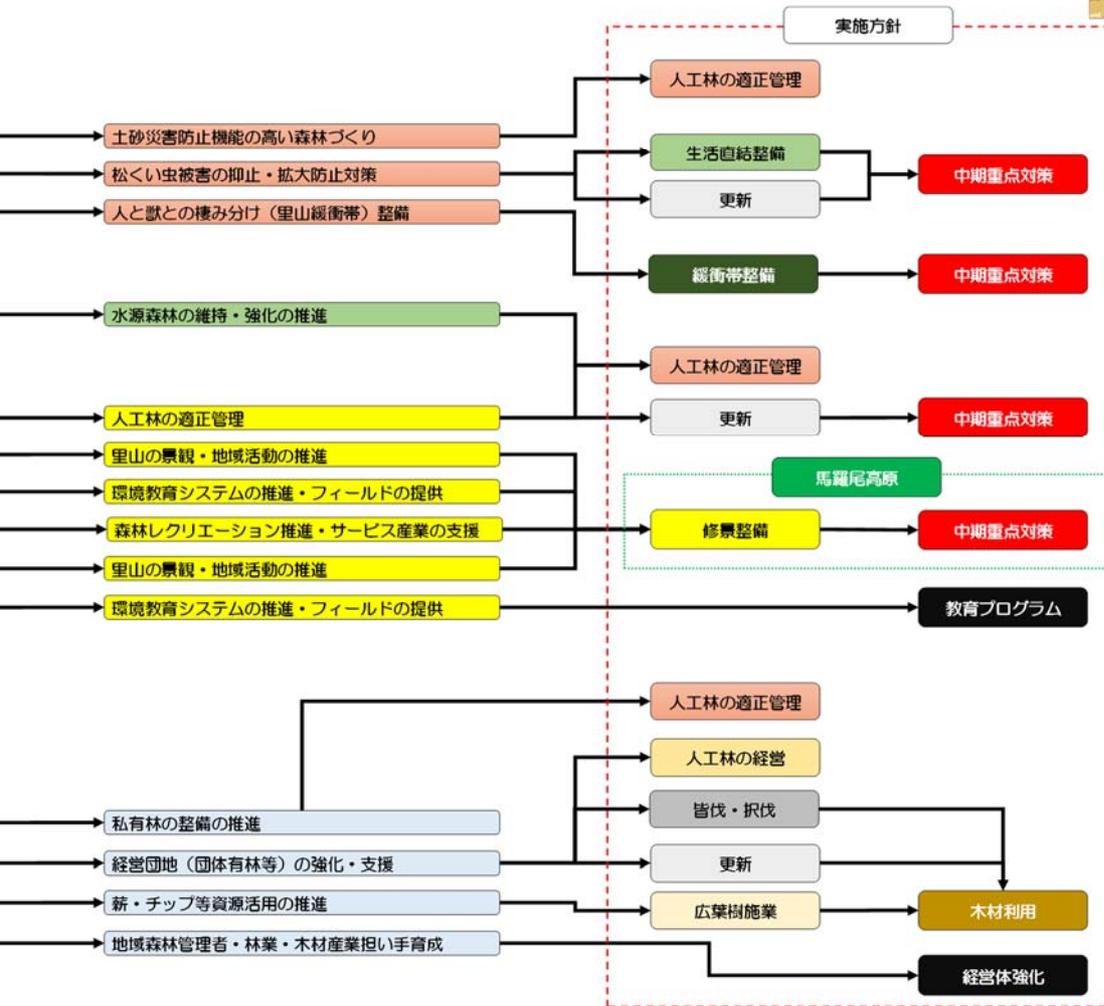
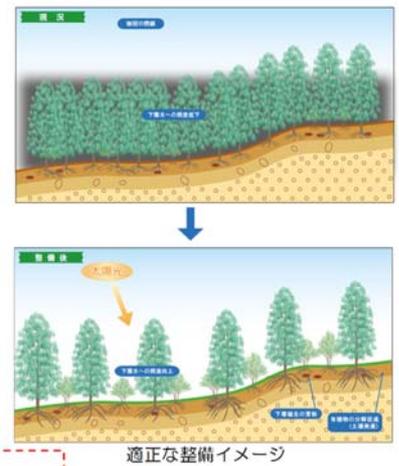
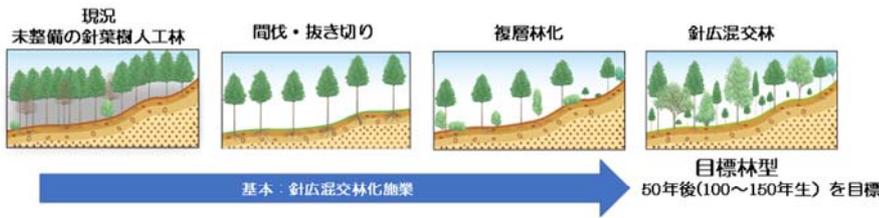
森林の山地保全機能の向上を進める整備

次の項目を中期目標の優先度が高いと位置付けて整備を推進します。

- 🌲 「松くい虫被害抑止・拡大防止対策」：松くい虫被害森林及びその隣接森林における森林整備や住民生活に直結する場所（生活道路・住宅後背森林等）の整備を行います。
- 🌲 「人と獣との棲み分け整備」：里地の農業や村民生活に直結するため、獣害発生頻度や村民からの要望、村他部署からの要望等を考慮して緩衝帯整備を実施します。猟友会との、綿密な連携によってニホンジカ、イノシシの個体調整（捕獲）を行います。



中期目標の優先度が高い項目とともに、「山地保全機能向上」を図る森林整備（針広混交林に誘導等）を推進します。



林床植生が失われたヒノキ林



林床植生が失われたヒノキ林の整備
大町市 居谷里水源での森林整備

★ 実施方針-2 水源涵養機能の向上を進める整備

🌲 「水源林の整備」：水保全機能向上のための整備を計画的に実施します。他の整備（山地保全等）、松くい虫対策や緩衝帯整備との関係を精査し、村民生活に直結する緊急箇所を優先します。

★ 実施方針-3 便益を享受できる機能向上を進める整備

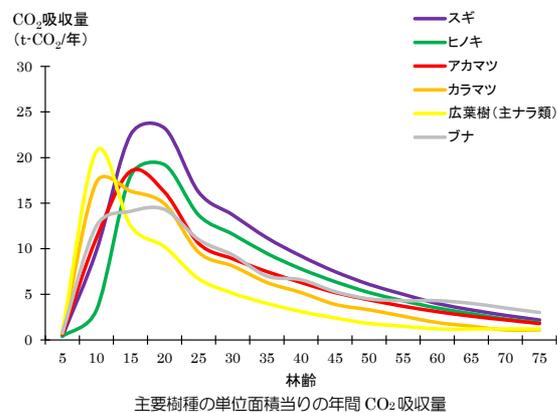
次の項目を中期目標の優先度が高いと位置付けて整備を推進します。

🌲 「森林 CO₂ 吸収の強化の推進」：神戸原付近は緩傾斜の森林（平地林）となっているため、環境先進企業等との連携で、森林整備を実施することが有利な条件にあります。間伐だけでなく、松くい虫対策として再造林した林地の下刈り等についても企業の協力で実施することが可能です。長野県が実施している「森林（もり）の里親制度」などについて検討します。

🌲 森林による CO₂ 吸収量を高めるためには、次の2点が重要です。

- ◇ 間伐が可能な人工林は積極的に間伐を実施します。
- ◇ 高齢林になると吸収量は激減するため、林業活動が可能な森林では、積極的に更新を行います。

🌲 「修景整備 馬羅尾高原の再整備検討」：馬羅尾高原の再整備（施設やアクセス道及び遊歩道を含めたハード整備、樹木及び植生等の修景整備）について検討します。



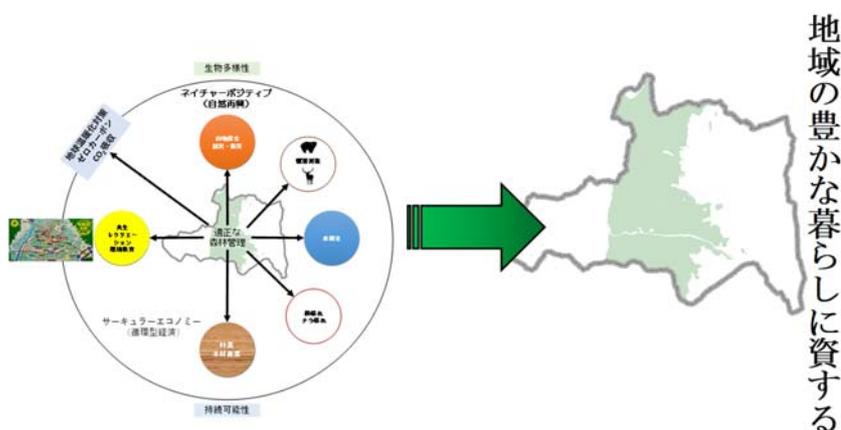
★ 実施方針-4

持続的な営みがある森林づくりを進める整備

- 🌲 「森林経営管理制度対象森林の特定（集積計画）」：森林経営管理制度に基づき、林業生産を行うべき地域を対象に意向調査を進め、「経営管理権集積計画（集積計画）」を設定します。意向調査の結果、林業事業者による管理を希望する地域においては、林業事業者と調整し「経営管理実施権」の設定を行います。
- 🌲 「集積計画地の森林整備」：「経営管理実施権」を設定する森林については、林業事業者等民間事業者による整備を支援します。「経営管理実施権」を設定できない森林については、必要に応じて森林経営管理法第33条による市町村森林経営管理事業の導入を検討します。

◆ 推進

- 村は、「松川村 実務・手引編」として、中期目標年 2030 年までの実行計画は着実に実施（Do）し、毎年検証（Check）を行う。改善（Action）が必要な事項は「素早く・機敏に（Agile）」修正・補完する「PDCA サイクル（plan-do-check-act cycle）」を行います。
- 森林を守ることは、生物多様性の保全につながると同時に、CO₂ の吸収源を守り、地球温暖化対策にもなるという相乗効果が生まれます。森林を適正（健全）に管理すると、一つの目的ではなく「山地保全（減災・防災）」・「森の恵み（水や CO₂ 吸収）」・「レクリエーションや環境教育」・「林業や木材産業」などに波及し、結果的に持続可能性が担保され「ゼロカーボン」、「生物多様性」、「ネイチャーポジティブ」、そして「サーキュラーエコノミー（循環型経済）」につながっていきます。一つの活動がさまざまな利益につながっていく「相乗便益（コベネフィット：co-benefits）」という概念が、森林管理には適合します。
- 森林があることで、森林だけでなく村民の暮らしが豊かになります。地域住民の豊かさに資するために推進していきます。



北アルプス森林林業活性化協議会（北アルプス連携自立圏による取組）

松川村 経済課 農林係
〒399-8501 長野県北安曇郡松川村 76-5
電話 : 0261-62-3109 (直通)
Fax : 0261-62-9405
E-mail : nourin@vill.matsukawa.lg.jp



松川村キャラクター
リンリン (左)・りん太 (右)